

ツノナガイソウロウグモの卵のうとクラッチ・サイズ

池 田 博 明

The Egg-cocoon and Clutch Size of the Spider, *Argyroides nipponicus*

Hiroyoshi Ikeda

ツノナガイソウロウグモ *Argyroides nipponicus* Kumada 1990 が記載された (Kumada 1990) 後も、これがツノナガだというクモを、私は野外で確認していなかった。しかし、2002年7月13日に神奈川県秦野市蓑毛の自然観察の森で、本種を確認し、卵のうと卵数について調査したので、その結果を報告する。

ツノナガを発見した場所は南向きの崖地で、クモは下草の間に不規則網を張り、卵のうを2個吊るしていた。母グモは一方の卵のうの近くにいた。

卵のうは白く小さい壺型で、千国の図鑑の「イソウロウグモの一種」(この種がツノナガイソウロウグモである)の卵のうとして掲載された写真のものと同様であった(千国 1989)。

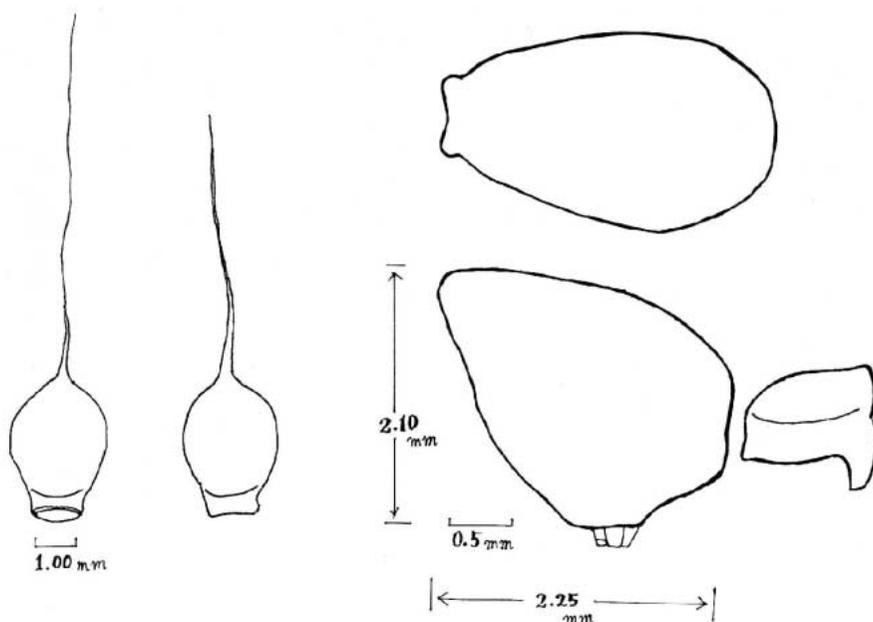


図1. ツノナガイソウロウグモの2個の卵のう(卵数11個と9個)とその卵のうをガードしていたメス成体(上は腹部背面図、下は側面図)。

卵のうの底面は直径 1mm 程度，壺の高さは底も入れると 3.5mm，柄は細く，柄だけの長さはほぼ 6mm 長であった（図参照）．フタオイソウロウグモの卵のうと比べると，大きさはかなり小さく，色はフタオが茶色であるのに比べて白色であった．ちなみに，千国図鑑のフタオイソウロウグモの卵のうは壺の底部の凸がなく，底面が丸くふくらんでいるので，違う種の卵のうのように見える．

秦野市蓑毛産のツノナガ 2 個の卵のうを開いてみると，ひとつの卵のう（図の左側）には足のできていない胚が 11 頭，もうひとつ（図の右側の卵のう）には足の出来たクモ形の子グモが 9 頭入っていた．卵のう内に発生せずに残っている卵は無かった．

11 頭の胚のサイズはそろっており，体長 0.75mm × 体幅 0.60mm であり，9 頭の子グモのサイズもそろっていて，体長 1.00mm × 体幅 0.60mm であった．

この卵のうを作った母グモの腹部の長さは 2.25mm，高さは 2.10mm で，腹部の最大幅は 1.75mm であった．母グモの腹部の後部は二叉に分岐しておらず，そこで尻が切れたように見えた．メスの形態図は記載されていないので（Kumada 1990, Yoshida 2001），腹部側面と腹部背面の概形をスケッチしておいた（図参照）．

フタオイソウロウグモの腹部の二叉突起は同じ個体でもクモの状態によって接近したり（採集したとき），離れたりする（網に居候してじっとしているとき）するので（池田 1994），私は突起を接近させたフタオイソウロウグモをツノナガイソウロウグモと誤同定する可能性があると考えていた．実際にツノナガイソウロウグモ本体を目前にすると，ツノナガイソウロウグモの腹部突起の形態はフタオイソウロウグモの突起接近型とはやや異なっていた．しかし，微妙な差異なので同定には標本を採集しておくなどの注意が必要であろう．

この崖地の別の場所でも，ツノナガイソウロウグモ雌成体と 2 個の卵のうを発見できた．

フタオイソウロウグモの卵のうについては，新海栄一の「クモの卵のうの写真集(2)」(新海, 1981)の「写真 23. フタオイソウロウグモ」にクモ本体と卵のう 1 個が白黒写真で紹介され，記述として「長さ 3~5mm，巾 2~4mm．色彩：茶色（濃いものから淡いものまで）．個数：通常 2 個，付着場所：居候しているクモの網の上部，または葉の間に不規則に糸を引いて，その中に

表 1. いくつかの文献におけるフタオイソウロウグモとツノナガイソウロウグモ

	フタオイソウロウグモ	ツノナガイソウロウグモ
1976		学研の図鑑クモ 85 頁 (フタオとして写真が掲載)
1981	クモ卵のうの写真集(2)写真 23	写真 24 の別種の方
1984	東海大学出版会フィールド図鑑クモ (=クモの卵のう写真集(2)写真 23)	
1987		森林書房クモ基本 50. 60 頁 (フタオとして写真が掲載)
1989	千国図鑑のフタオの卵のう(?)	イソウロウグモの一種

つるす」とある。そして、「写真 24. フタオイソウロウグモの卵のうの大きさの変化」では、茶色で大きめの卵のうと、長さも巾も 2 分の 1 倍の白色で小さめの卵のうが並列された写真に対して「熊田氏によると別種の可能性があるとのことである」との記述がある。

この「別種」がツノナガイソウロウグモであり、新海の卵のうデータの小さい方、色の淡い方、不規則網を自分で作成している方が、ツノナガイソウロウグモの卵のうに関するものである。卵のうの色彩と形態からすると、ツノナガイソウロウグモ記載（1990 年）以前のフタオイソウロウグモの卵のう写真にはツノナガの卵のうがあると思われた。私の判断は表 1 のようである。

これまで、ツノナガイソウロウグモのクラッチ・サイズ（1 個当りの卵数）に関する記録は無かったので、本報で初めて報じた。

参考文献

- 千国安之輔 1989. 写真日本クモ類大図鑑. 309pp. 偕成社. 東京.
- 池田博明 1994. フタオイソウロウグモの腹部の突出度は変化する. *Kishidaia*, 66: 46.
- Kumada, K. 1990. A new species of the genus *Argyrodes* from Japan. *Acta Arachnol.*, 391: 1-5.
- 中平 清 (監修)・松本誠治・新海栄一・小野展嗣 1976. クモ. 160pp. 学習研究社. 東京
- 新海栄一 1981. クモの卵のうの写真集(2). *Kishidaia*, 47: 104-115.
- 新海栄一・高野伸二 1984. クモ. 204pp. 東海大学出版会. 東京.
- 新海栄一・高野伸二 1987. クモ基本 50. 128pp. 森林書房. 東京.
- Yoshida, H. 2001. The genus *Rhomphaea* (Aranea: Theridiidae) from Japan with notes on the subfamily Argyrodoxinae. *Acta arachnol.*, 50: 183-192.